Noto+ PLUS

「行政」「人」「地域の魅力・価値」を「プラス」でつなぐ情報誌

広報のと No. 84
2012.2.1

2

纏（まとい）に込める火消しの心意気

1月7日に実施された能登町消防団出初式。式典終了後の一斉放水では、16分団がそれぞれ威勢良く放水し、火消しの心意気を見せた。（表彰関連は26ページに掲載）

広報のと 第84号
平成24年2月1日発行

■発行：能登町 ■編集：広報情報推進課
〒927−0492
石川県鳳珠郡能登町字宇出津新1字197番地1
☎：0768−62−1000(代)
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp
E−メール：info@town.noto.lg.jp

ぶらり ゆらり 里山里海

第２回

『スノーカントリー』

雪割草

『雪』という風土の刻印

能登に移住して一番違いを感じたのは、生活の中に入り込んでくる自然の度合いの大きさでした。その代表が『雪』。ここの冬は放っておいてくれません。

関東育ちの私にとって、冬は毎日晴天でした。一日でも雪が降れば大騒ぎです。秋から切れ目なく冬になって切れ目なく春になります。仕事も学校も生活もそのまま。東京は季節のない祭りが毎日続いているようで、もっともっとと走り続けるのです。

しかしここには季節の切れ目があります。見慣れた世界が初雪で真っ白に変わる時、誰もが向こう三カ月間「雪国」で暮らす覚悟をします。冬と向き合い、冬をいなし、冬をやり過ごし、冬と親しむために。「季節時計」がチクタクと動き出します。

雪は刻印を残します。雪割草は雪があるからこそ森で命をつなぎ、雪に負ける生命はブナ林に存在しません。人の心も同じです。屋根雪が落ちないところに庭木を植え、盛夏に冬への折り返しを感じ、秋には備えます。雪のない時も雪を感じる。私が住む柳田地区は人も暮らしも自然の中にあることを活字ではなく皮膚感覚で会得できる風土でした。

雪は農業を止め、人の行動を制限し、経済を停滞させる自然のブレーキかもしれません。でもやがてそれになじんでくると、すべてを覆い隠す冬にまぎれて世界から離された感覚に親しめるようになります。静けさと清浄さ、人の温かさや親密さが身近です。その場にとどまり、そのままの自分を認める大切さはおそらく、自然の摂理に則（のっと）った持続するための智恵。春の雪解け水がすべてを育む源となるように、とどまることは創造のはじまりです。

「季節時計」は雪が去ればグルンと回り、齢をひとつ重ねます。

写真・文　山﨑昭宏
【PROFILE】Yamazaki　Akihiro
昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。海外ガラス食器メーカーの日本市場導入を手伝う仕事から、能登の自然や文化を生かしたエコツアー開発の仕事に転職。移住者としての「よそ者」目線を大切にしながら、能登の魅力を内外に発信している。
ブログ：ゆらりぶらり http://blog.livedoor.jp/yuraributari/

VEGETABLE OIL INK
Waterless Printing. Naturally.

「広報のと」2月号の印刷費は一部当たり32円です。